

# 龍ヶ崎のお宝の木探訪マップ 1

## 【龍ヶ崎地区】



- |          |             |          |
|----------|-------------|----------|
| ① スダジイ   | ② モミ・アカガシ   | ③ トチノキ   |
| ④ ナギ     | ⑤ ケヤキ       | ⑥ カンザンチク |
| ⑦ ヒマラヤスギ | ⑧ シダレザクラ    | ⑨ ケヤキ・ナギ |
| ⑩ ケヤキ    | ⑪ ニッケイ・スダジイ | ⑫ ケヤキ    |
| ⑬ アカマツ   |             |          |

# スタジイ

【ブナ科シイ属】

データ

探訪マップ【龍ヶ崎地区】①

樹高/ 15m 幹周り/ 420cm

推定樹齢/ 400年

場所/ 愛宕神社(根町)



## ■愛宕神社の大すだ椎（しい）■

愛宕神社は、龍ヶ崎市立愛宕中学校に隣接した小高い丘陵地にあります。寛永18年(1641年)、仙台藩二代藩主・伊達忠宗公が領地を一望できるこの地に領民の安泰と火災、災難除けを祈願して建立されました。

社殿は表6尺、奥6尺5寸の総檜造りで四面に優れた彫刻が施されており、特に正面の鷹の彫刻は逸品です。今日でも「火伏の神」信仰が地元の人々に受け継がれ、年2回の大祭が行われます。特に1月24日の大祭は盛大です。

愛宕神社本殿の奥にご神木の巨木スタジイが鎮座しています。その樹冠は境内一面の深緑をまるで一本で覆うかのように壮大です。喧噪から離れたのんびりと散策を楽しむには最適地です。

スタジイは常緑高木の広葉樹です。別名はイタジイやナガジイなどですが、シイという場合にはスタジイを指します。暖地に多く、鬱蒼とした巨木になり、材は建築・器具に、樹皮は漁網、釣り具用の染料用いられています。



# モミ・アカガシ

【マツ科モミ属】【ブナ科コナラ属】

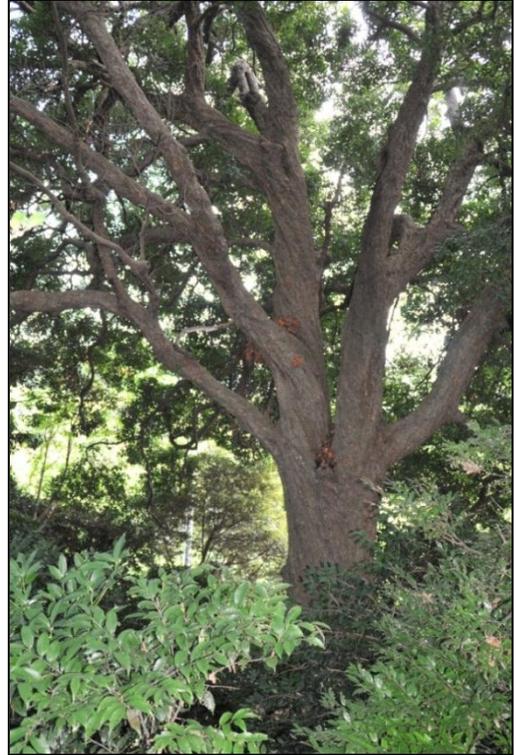
データ

## 探訪マップ【龍ヶ崎地区】②

(モミ) 樹高/ 30m 幹周り/ 310cm  
 推定樹齢/ 300年  
 (アカガシ) 樹高/ 30m 幹周り/ 370cm  
 推定樹齢/ 400年  
 場所/ 愛宕神社(根町)



【モミ】



【アカガシ】

## ■愛宕神社の木々たち■

### モミ

モミの巨木は社殿に向かう参道右側にあり、天に向かって高くそびえ、その姿に圧倒されます。常緑針葉樹で北端は秋田県、南端は鹿児島県（屋久島）と広範囲に分布します。

材は色が白く美しく天井板、家具、樽、製紙パルプなどに用いています。

### アカガシ

社殿奥の斜面に巨木のアカガシがあります。アカガシの名は、材が淡紅褐色で赤みが強いことからついたものです。材は床材や柱、器具材に利用され、また、秋には2年かかって熟したドングリが沢山落ちています。

桜花と眼下の家並みや遠山にたなびく春霞の景色は一幅の名画といえますが、時空を超えての歴史の散歩が楽しめます。

北方の外縁にはうっそうとした斜面林がおおい、スタジイの近くのアジサイの群生が心を和ませます。

# トチノキ

【ムクロジ科トチノキ属】

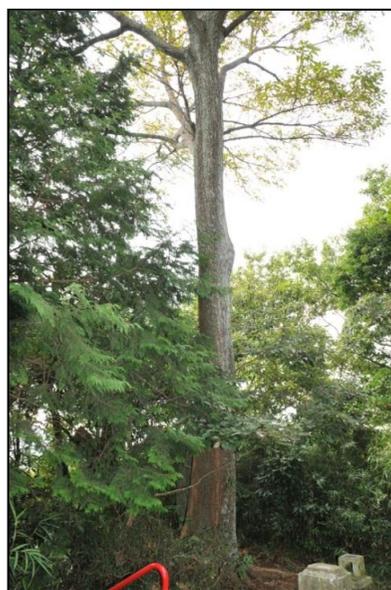
デ  
ー  
タ

## 探訪マップ【龍ヶ崎地区】③

樹高/ 20m 幹周り/ 210cm

推定樹齢/ 100年

場所/ 御嶽神社(古城)



## ■御嶽神社の橡（とち）の木■

戦国時代、県南を代表する領主として名をはせた土岐氏の龍ヶ崎城跡に御嶽神社があります。かつて御嶽神社は龍ヶ崎第二高等学校と地続きの丘陵でしたが、宅地化により、現在は孤立した状態となっています。その神社の石段を登り切った左手に大きくそびえるトチノキがあります。

トチノキは北海道西南部から九州に分布する落葉樹木で、冷温帯域の山地に生育します。葉は大きく5～7つの掌状に分かれており、さながら「天狗の団扇」と呼びたくなります。5～6月に大形の房状花序を付け、白い花を咲かせます。

近年、都会でも街路樹として植栽されることも多くなりました。ヨーロッパのマロニエと同じ仲間です。かつてトチノキの種子は米が少ない山間部では貴重な食糧でしたが、今では土産品（とち餅）のひとつとして扱われています。

## ナギ

【マキ科マキ属】

データ

## 探訪マップ【龍ヶ崎地区】④

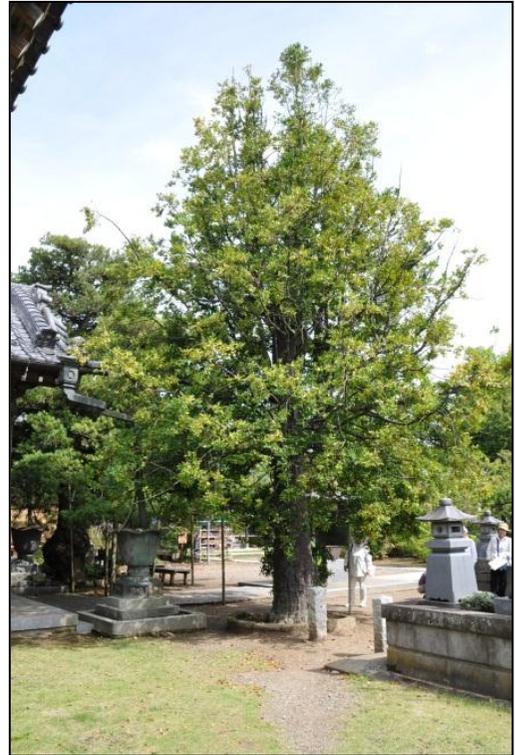
樹高/ 13m 幹周り/ 185cm

推定樹齢/ 100年

■昭和56年3月30日天然記念物

龍ヶ崎市指定文化財に指定

場所/ 大統寺(横町)



## ■大統寺の竹柏（なぎ）■

マキ科の常緑高木。暖かい地方に自生するものもありますが、神社の境内などによく植えられ、奈良県の春日大社境内の純林はよく知られています。

樹皮は紫褐色で枝が多く茂り、八丈島、紀伊半島、九州、四国西部、沖縄などの暖かい山中に分布しています。ナギは風に通じることから、海上安泰、晴天のまじないにするなど、縁起かつぎとして昔から使われました。

曹洞宗大統寺は、天正13年(1585年)龍ヶ崎城主・土岐胤倫の創建、根町台の大運寺、さらに大聖院・大真院の二つを合併し、大統寺としました。本堂の裏手には土岐氏の墓があります。



# ケヤキ

【ニレ科ケヤキ属】

デ  
ー  
タ

## 探訪マップ【龍ヶ崎地区】⑤

樹高/ 30m 幹周り/ 450cm  
 推定樹齢/ 400年  
 ■昭和56年3月30日天然記念物  
 龍ヶ崎市指定文化財に指定  
 場所/ 八坂神社(上町)



### ■上町、八坂神社の霊木、大榲 (おおけやき) ■

上町、八坂神社本殿奥にケヤキがあります。この巨樹は天正5年(1577年)、現在地に遷宮したときに、植樹された霊木といわれ、ほの暗い境内に、神々しさを放ち、深閑とした空間を醸し出しています。

このご神木は木肌ははがれ、根が隆起するなどケヤキの特徴が良く出ています。

現在の中心市街地の町並みは、この遷宮の頃に整備されたと推測されます。遙かな時代からこの町と共に歩み、変り行く町を見守ってきたケヤキは、ますます風格が漂い、微塵も衰えを見せません。

真夏の風物詩、八坂祇園祭は今も盛大に行われています。故郷を想うとき、人はどんな原風景を抱くのでしょうか。様々な夏の色に縁取られた祝祭に郷愁を感じる方もいるのではないのでしょうか。日本各地で繰り広げられる郷土色豊かな祭りの楽しさは格別です



# カンザンチク

【イネ科メダケ属】

デ  
ー  
タ

探訪マップ【龍ヶ崎地区】⑥

■昭和 55 年 3 月 18 日天然記念物  
龍ヶ崎市指定文化財に指定  
場所/ 上町民家(上町)



## ■俳人、杉野翠兄の寒山竹（かんざんちく）■

江戸時代の中期の豪商、杉野翠兄宅の筑波庵跡には当地で珍しいカンザンチクがあります。また、庭内には翠兄建立の灯籠を兼ねた服部嵐雪（焦門十哲の一人）の句碑もあります。翠兄は俳人小林一茶との交流でも知られていますが、当時、常陸・下総・下野と広範囲に俳諧を広め、多くの門弟を育てたことは、今日でも高く評価されています。

カンザンチクは、稈が直立し、高さ3～5m、直径1.5～4cm、新緑色で上部の各節から3～5条の枝を出し、さらに分岐して密生します。枝や葉が上を向いているため、全体がそびえ立っている様は特異です。葉が細長く稈が枯れても葉が脱落しないので、小枝を束ねて手箒などに利用されていました。また、葉が立性で稈が密生し、葉がよく茂るので庭園樹林や防風林として活用されました。しかし、関東地方以西で大正時代の初め全国的に開花、枯死したため、今日では非常に少なくなりつつあります。

# ヒマラヤスギ

【マツ科ヒマラヤスギ属】

データ

探訪マップ【龍ヶ崎地区】⑦

樹高/ 20m 幹周り/ 320cm

推定樹齢/ 100年

場所/ 竜ヶ崎第二高等学校(城下)



## ■天に伸びゆく竜二高のヒマラヤ杉(すぎ)■

富士見坂を登り正門を抜けると、メキシコのサボテンのような樹形の木々が視界に入ります。この巨木がなぜこの学び舎にあるのか。かつての「学年通信」には、ひとりの教師がこの木を主題に生徒への思いを託し「頂きだけがのびようとしてもそれだけではヒマラヤスギにはなれない、どの枝も互いに引っ張り合って勢いよく天に向かって伸びていく」と記されています。

峻険なヒマラヤの峰々に逞しく育つ巨木のように、どの枝も天に向かってのびている姿と若葉が出ると古い葉の房のようになり、入替ることが生徒達の成長に重なります。

文豪シェークスピアはイギリス人の心の故郷コッツウォルズ丘陵のヒマラヤスギの下で「真夏の夜の夢」を執筆し、初演したとのエピソードもあります。

ヒマラヤスギはマツ科の常緑高木で、高さ50m、直径3mにも達します。枝は水平に張り、樹形は円錐形。日本には明治初めに渡来し、庭園樹、観賞用、建築土木材として利用され、世界三大美樹(三大公園樹木)の一つです。

# シダレザクラ

【バラ科サクラ属】

データ

探訪マップ【龍ヶ崎地区】⑧

樹高/ 10m 幹周り/ 500cm

推定樹齢/ 450年

■昭和28年7月9日 天然記念物

茨城県指定文化財に指定

場所/ 般若院(根町)



## ■天然記念物 県指定文化財 般若院の枝垂れ桜(しだれざくら)■

天台宗般若院は天元元年(978年)道珍法師によって貝原塚町に開基され、その後大永4年(1525年)現在地根町に移ったそうです。

当院は古刹として知られていますが、本堂裏手にあるシダレザクラは市の名木として古くから親しまれてきました。

シダレザクラはエドヒガン(江戸彼岸)の園芸品種で枝垂れ性をもっており、名前のとおり彼岸頃に開花し、花が多く咲く特性から多くの品種の母種として使われます。ソメイヨシノもその一つとして知られています。

当院のシダレザクラは推定樹齢450年といわれており、シダレザクラの巨樹として県指定を受けました。開花時は美観を呈し、毎年心待ちにしていた大勢の花見客でにぎわいをみせています。



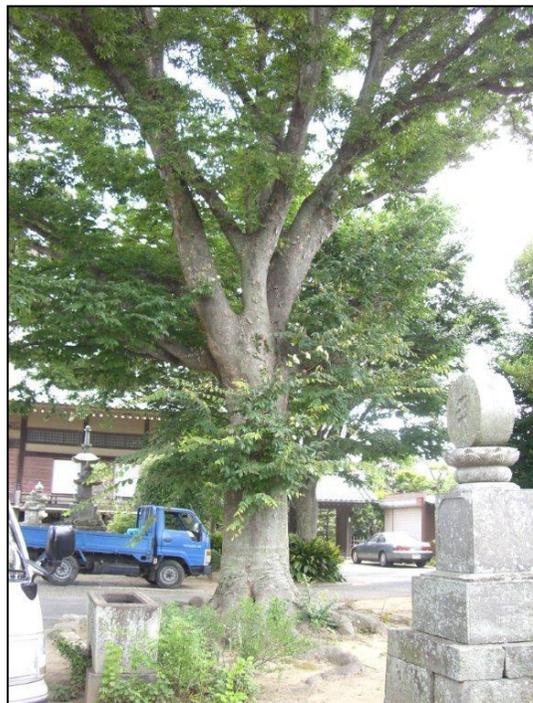
# ケヤキ・ナギ

【ニレ科ケヤキ属】 【マキ科マキ属】

データ

## 探訪マップ【龍ヶ崎地区】⑨

(ケヤキ) 樹高/ 20m 幹周り/ 300cm  
 推定樹齢/ 200年  
 (ナギ) 樹高/ 15m 幹周り/ 95cm  
 推定樹齢/ 100年  
 場所/ 般若院(根町)



【ケヤキ】



【ナギ】

## ■般若院の樺(けやき)■

### ケヤキ

般若院本堂前におおいかぶさる様に二本のケヤキがあります。日本の代表的な広葉樹で、古くから庭木や街路樹として植えられています。特に関東地方では「ケヤキ並木」と称されるところが多く、新緑、秋の紅葉と私たちを楽しませてくれます。

材質は堅く、木目が美しい事から「異(け)やけき木」(けやけし=他のものより目立っている)～「けやけき」～「けやき」と変化したといわれています。建築材としても良材で、家具材、細工物として利用されています。

### ナギ

本堂左手にナギがあります。龍ヶ崎市の天然記念物になっている大統寺のものよりも樹齢は若く、二本の寄せ植えになっています。

ナギは熊野権現のご神木でその葉は笠などにかざすことで魔除けとなり、帰りの道中を守護すると信じられていました。ナギはマキ科に属する針葉樹でありながら広葉樹のような幅の広い葉をもつ樹木です。その葉は、縦に細い平行脈が多数あって主脈がないため、縦は簡単に裂くことができますが、横にちぎることは難しいことから、その丈夫さにあやかり、男女の縁が切れないよう女性が葉を鏡の裏に入れる習わしがあったようです。

# ケヤキ

【ニレ科ケヤキ属】

データ

探訪マップ【龍ヶ崎地区】⑩

樹高/ 15m 幹周り/ 520cm

推定樹齢/ 400年

場所/ 田町民家(田町)



## ■威風堂々、田町の大榲（おおけやき）■

庭の一隅にその巨樹はありました。朽ちたところもありますが、樹勢は十分にあり、まるで仁王立ちする巨獣そのものです。

しかし、目を凝らしてみるとユーモラスでどこか高祖父のような堂々たる存在感にあふれています。推定樹齢400年の巨樹の根元には祠が祭られ、代々ご家族の歩みとともに生きてきた証を今に伝えていきます。

大きな古時計が永遠の時を刻むかのように、この巨樹もまた、家族に見守られながらおだやかに歳月を重ねていくことでしょう。

ケヤキは、本州・四国・九州に産し、肥沃、向陽の深層壤土質を好み、関東ローム層などは最適地で、江戸時代徳川幕府が橋や船を造るため、盛んに植えさせたといわれています。



## ニッケイ・スタジイ

【クスノキ科クスノキ属】【ブナ科シイ属】

データ

## 探訪マップ【龍ヶ崎地区】①

(ニッケイ) 樹高/ 20m 幹周り/ 220cm  
 推定樹齢/ 150年  
 (スタジイ) 樹高/ 25m 幹周り/ 400cm  
 推定樹齢/ 150年  
 場所/ 根町民家(根町)



【ニッケイ】



【スタジイ】

## ■昭和の香り、肉桂（にっけい）とすだ椎（しい）の巨木■

根町 撞舞通りの中ほどの個人宅庭でニッケイの名木と出会いました。俗に「ニッキ」という言葉の響きに郷愁を感じる人も多いでしょう。木の根っこをしゃぶると甘く辛い独特の香りが広がり、なぜかやめられなくなったこと、そんな子どもの頃の思い出とともに昭和のノスタルジックな香りが蘇ります。享保年間（1716～1735年）頃、中国から移入され、これが広まり日本の暖地でも栽培されました。

安政元年（1854年）、家の蔵が建てられた頃には既に植えられていたと思われ、当家の屋敷林として激動の歳月を見守ってきました。

樹皮には芳香と辛味があり、乾燥したものは古来より香辛料・胃健薬として珍重され、漢方薬として葛根湯、桂皮湯などに調合され、急性熱病、感冒、消化器、循環器、老人病などの薬になっています。

また、邸宅内にはねじれたスタジイがあります。見事な巨木で当家の歴史の重さを感じます。このスタジイには以前フクロウが住んでいたそうです。

その他に、立派なタブノキが2本あります。タブノキは海岸性の植物です。



## ケヤキ

【ニレ科ケヤキ属】

データ

## 探訪マップ【龍ヶ崎地区】⑫

樹高/ 25m 幹周り/ 350cm

推定樹齢/ 150年

場所/ 龍ヶ崎第一高等学校(平畑)



## ■未来へ躍動、竜一高の大樺（おおけやき）■

龍ヶ崎一校は、かつて、鎌倉時代・常陸南部の地頭職にあった下河辺政義氏の末裔・龍ヶ崎氏の居城のあったといわれる台地にあります。当校は明治33年(1900年)創立の伝統校で、校訓「誠実・剛健・高潔・協和」のもと、文武両道・文武両道を実践し、卒業生は多方面で活躍し、多くの実績を残しています。

校歌・第5節は「石段登る六十余 一足ごとに踏みかため～」と唄われていますが、石段を登り、正門を通り抜けてグラウンドに向かう右側に3本の巨木が生徒達を見守るようにそびえています。その雄々しき姿は、未来への発展と躍動を感じさせます。

ケヤキは東アジアの一部と日本(本州・四国・九州)に分布し、高さ25~30mになるため、巨木が国や市区町村のシンボル「県の木」「市の木」として指定しているところが多数あります。木目が美しく磨くと光沢を生じ、摩耗に強いので家具・建具等、そして、神社仏閣・建築用材として古来より多用されてきました。

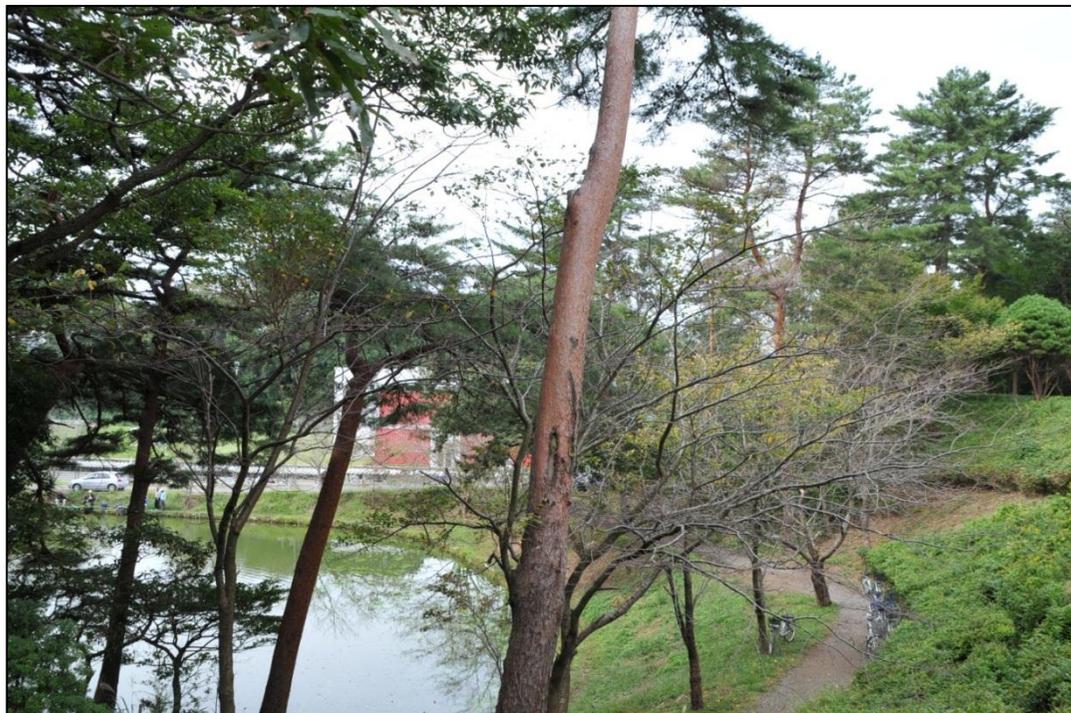


## アカマツ

【マツ科マツ属】

デ  
ー  
タ

## 探訪マップ【龍ヶ崎地区】⑬

■アカマツ樹林  
場所/ 流通経済大学(平畑)

## ■流通経済大学の赤松樹林（あかまつじゅりん）■

昭和40年（1965年）、この地に日本通運株式会社を中核に産業界の広範な支援のもと、流通経済大学が開学しました。開学当初は経済学の単科大学でしたが、現在では5学部8学科と大学院4研究科を擁する中規模総合大学となりました。スポーツ面での活動も盛んで、オリンピックやプロの選手も数多く輩出しています。

平成16年には「龍ヶ崎市と流通経済大学との提携に関する協定書（龍・流協定）」が締結され、毎年、市民大学講座や各種イベントなどが展開されています。

大学の南側にある露月池に面した明るい斜面に沿うように、約200本のアカマツ樹林があります。かつてこの場所には、市立龍ヶ崎中学校があり、校歌の冒頭に「松薫る奈戸岡に、北に遥かな筑波峯の～」と唄われ、多くの生徒を送り出しました。

今では、大学生たちはもとより、池で釣りを楽しむ太公望や、散歩に訪れる市民の憩いの場となっています。

